

大阪産業大学 研究シーズシート

研究シーズ テーマ	咀嚼が食欲および食後糖代謝に及ぼす影響の性差			
分 野	健康科学			
キーワード	血糖値、食欲調節ホルモン			
研究者名・職位	亀本佳世子・准教授			
所 属	スポーツ健康学部 スポーツ健康学科			
研究シーズ概要	咀嚼は、摂食行動における最初の消化活動であり、その後の消化吸収に影響を及ぼします。さらに、十分な咀嚼は食べ過ぎを防ぎ、食事量を減らすことができます。健常成人を対象とした先行研究においても、十分な咀嚼が食欲および食後の血糖値上昇を抑制したことを報告しています。女性は月経周期によって食欲やエネルギー摂取量が変わることが明らかとなっていますが、咀嚼が食欲や食後糖代謝に及ぼす影響に関する性差は明らかになっていません。			
進捗状況	着想・構想段階 基礎研究段階 実証段階			
連携研究の 範囲・方法	◆これまでの咀嚼に関する研究では主に、咀嚼に関わる筋の活動、咀嚼回数の測定、咀嚼の有無（食前にガムを噛む、通常の固形食とミキサー食で比較するなど）を評価する手法で行われています。食品や測定技術のご提供などで共同研究に繋がられる可能性があります。			
用途・効果 ・市場	◆咀嚼に関する研究は、主に障害・疾病との関連性、肥満予防、食育、そして高齢者のオーラルフレイル予防を目的として行われてきました。性差を検討した研究も散見されますが、月経周期を考慮した研究は見当たりません。女性の健康課題を解決するための製品・サービス提供「フェムテック」の開発に繋がる研究です。			
研究者の 業績等	◆Kamemoto et al., Effects of menstrual cycle on appetite-regulating hormones and energy intake in response to cycling exercise in physically active women. Journal of Applied Physiology 132(1). 2022 ◆Kamemoto et al., Effect of vegetable consumption with chewing on postprandial glucose metabolism in healthy young men: a randomised controlled study. Scientific Reports 14(1). 2024			

連絡先	大阪産業大学 社会連携・研究推進センター 産業研究所事務室 TEL : 072-875-3001（内線 2816・2809） FAX : 072-875-6551 E-mail : sangaku@cnt.osaka-sandai.ac.jp
-----	---